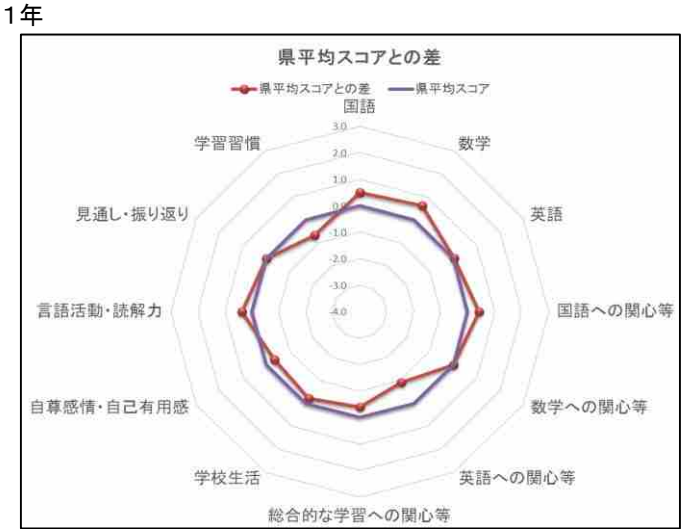


平成30年度 島根県学力調査結果及び分析・対策(松江市立鹿島中学校)

(1) 学力調査結果から見られた傾向

		成果と課題(○:成果、●:課題)	対策
1年	国語	○すべての領域において、県平均を上回った。特に漢字の読み・書きの正答率が高かった。 ●「話す・聞く」の領域は、他の領域に比べて正答率が低い。	・毎週初めの漢字練習帳提出と漢字テストを今後も継続して指導していく。 ・授業の中で、相互にインタビューし合う学習活動を取り入れる。
	数学	○すべての領域において、県平均を上回った。問題文を正しく読みとり、正答を導き出すことが、概ねできていた。 ●「1次式の分数の加法」と「分数の方程式」の計算方法や式の意味を理解して、処理することに課題がある。	・一時間の授業において、個で考える時間、ペア学習やグループ学習の時間、一斉学習の時間を適切に使い分け、思考が深まるように工夫する。 ・誤答例を示し、どこが間違っているか、なぜこのような間違えをしたのか、考えさせる機会を設ける。
	英語	○学習指導要領の領域では「読む」が県平均を上回った。評価の観点の「言語や文化についての知識・理解、外国語理解の能力」が県平均を上回った。 ●「聞く」「書く」の領域で県平均を下回っている。	・「聞く」に関して、聞き取り問題を取り入れ、聞き取りの能力が高まるような指導をする。「書く」に関しては、単語テストを通して基本的な語彙力の向上に努める。 ・ALTによるスピーキングテストを取り入れ、「聞く」「話す」力の向上を図る。
2年	国語	○学習指導要領の領域では「話す・聞く」「読む」「伝統的な言語文化と国語の特質」が県平均を上回った。特に漢字を書くこと、品詞の識別の正答率が高かった。 ●「書く」の領域で、県平均を下回っており、特に考えや意見が効果的に伝わるように工夫して書くことに課題がある。	・毎時間の漢字テストを今後も継続して指導していく。 ・「書く」に関しては、話し合いの活動と関連させ、自分の意見を持つ基盤を作り、書き方の指導を行う。 ・個で考えるグループ学習や一斉学習で思考が深まるような工夫をする。
	数学	○すべての領域において県平均を上回った。特に数と式の領域では基本的な数学の技能が身につけている生徒が多い。 ●「関数」を実生活と結びつけて考える問題や、「図形」の体積・角度の計算方法、図形で使われる言葉の意味を理解することに課題がある。また、記述式の問題で無回答率が高い。	・ペア学習やグループ学習を取り入れ、数学的な用語を交えて自分の考えを表現する場面を作り、計算方法や言葉の意味を理解できるよう工夫する。 ・自分の考えを表記する場面も多く取り入れる。
	英語	○領域等の全ての区分、評価の観点の「言語や文化についての知識・理解」、「外国語理解の能力」、問題形式の「選択式」、問題内容の「活用問題」では、県平均を上回った。 ●評価の観点の「外国語表現の能力」、問題形式の「記述式」は県平均を下回っており、特に対話の流れをふまえて適切な文を書くことに課題がある。無回答率も高い。	・授業の場面において、個、ペア、グループのどの形態で活動するのが効果的なのか、状況に応じて使い分ける。 ・つまづきやすい文法項目は、年間を通して、授業中繰り返し復習する機会を設けることで、定着を図る。 ・英文を書く機会を増やし、書くことに対する抵抗を減らす。

(2) 各学年・各教科の調査結果チャート

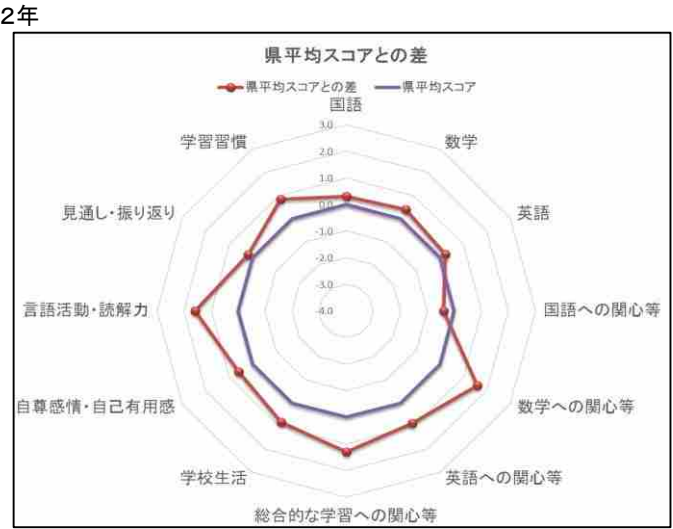


(参考) 平均正答率

		国語	数学	英語
1年生	本校	76	52	64
	松江市	68	41	65
	島根県	67	38	64

受検者数
1年生 35 人

各スコアの範囲は-4から+3までで、島根県のスコアは基準値の0となっています。
スコアが0より大きければ大きいほど、島根県よりも「当該教科で平均正答率が高かった」、あるいは「当該カテゴリで肯定的回答が多かった」という結果になります。



(参考) 平均正答率

		国語	数学	英語
2年生	本校	71	49	61
	松江市	67	43	58
	島根県	65	40	57

受検者数
2年生 38 人

(3) 生活・学習に関する意識調査から見られた傾向

平成31年2月15日

		成果と課題(○:成果、●:課題)	対策
1年	授業改善に関わる事項	○図書館活用の授業や調べ学習に関する肯定的な回答が、県平均を上回っている。 ●英語への関心等が他の2教科に比べて低い。	・学校図書館を使う授業やグループ学習を今後も継続して行う。
	家庭学習に関わる事項	○宿題をていねいに見て返していることに関する肯定的回答が県平均を上回っている。 ●家庭学習の時間が少ないが、原因はメディアへの接触時間が長いと考えられる。	・毎日の自主学習(ステップ学習)を今後も継続し、時には教員からのコメントも入れる。 ・メディア接触の時間を減らすための授業や取組、保護者への啓発を行う。
2年	授業改善に関わる事項	○調べ学習や話し合い、自分の考えを発表することについて肯定的な回答が県平均を上回っている。 ●国語への関心等が県平均よりも低い。	・ペア、グループ学習等を継続し、学び合いや自分の考えを発表する機会を増やす。
	家庭学習に関わる事項	○家庭学習時間が平日に1時間以上と県平均を上回った。1～3時間の勉強をし、復習を中心に行っている生徒が多い。 ●家庭学習の中で、授業の予習をしていない生徒が半数を超えている。	・平日の家庭学習の時間は1～3時間程度と生徒によって差があるが、自主学習ノートを点検する中で、その内容を確認し指導していく。 ・予習については、授業の進め方等について各教科での特性に合わせて指導していく。

(4) 生活・学習に関する意識調査の結果

